

基本的な考え方

これからの社会資本整備においては、ストック効果「最大化」戦略を確立。

- ① 「効果が出る」から「効果を出す」へと発想を転換
- ② 「賢く投資・賢く使う」の徹底 ⇒ ストック効果の「見える化」さらに「見せる化」へ ⇒ 「フィードバック」というサイクルの確立

具体的施策

「賢く投資・賢く使う」の徹底

(1)「賢く投資」(投資面の工夫)

- ・民間投資の誘発
 - 企業の事業活動に合わせた事業実施スケジュールの調整 等
- ・複数事業の一体的実施
 - 複数施設の配置計画の工夫 等
- ・ハード・ソフトの総動員
 - 道路整備に伴う事業地周辺における規制緩和 等
- ・小さな投資で大きな効果
 - 既存施設の機能を高める追加投資 等
- ・新技術の活用
 - ICTを活用した先進的モニタリングシステムの利用 等

(2)「賢く使う」(施設運用面の工夫)

- ・施設の利用効率の向上
 - 需要状況に応じた継続的な運用の見直し
 - 施設の運用によって得られるデータの活用 等
- ・施設の高度化、多機能化の推進
 - PPP/PFIの手法による施設の高付加価値化
 - 未利用資源の活用 等
- ・ビッグデータの活用
 - ビッグデータによる施設利用の状況の可視化・分析 等

(3)「賢く投資・賢く使う」の条件整備

- ・事業計画、完成見通し等の情報開示
 - 計画のビジュアル化など分かりやすく、かつタイムリーな情報発信 等
- ・地域における協力・連携体制構築
 - 官民一体となった計画的、継続的な取組 等
- ・行政手続の円滑化の推進
 - 審査手続の迅速化やワンストップ化 等

事業の効果的实施

ストック効果の「見える化・見せる化」

(1)幅広い効果の把握

- ・事後評価等の充実
 - 効果を高めた「工夫」の実績やさらに効果を高めるための対応策等のレッスン(教訓)も可能な限り把握
 - 事後評価等において、発現した多様なストック効果を可能な限り客観的、定量的に把握
- ・ビッグデータ、アンケート等の幅広い情報の活用
 - 行政機関や民間事業者が保有する情報のほかビッグデータの積極的な活用
 - アンケートの活用にあたっては、ウェブでの実施等による効率化にも留意
 - データの所在、活用方法等の整理

(2)誰にでも分かりやすい伝え方へ

- ・情報の分かりやすい形での提供
 - 事例集の作成やアーカイブ化により、分かりやすく解説・紹介
- ・相手に応じた伝え方の工夫
 - 地域住民向け、企業向け等、相手に応じたストック効果の伝達方法の検討

(3)経済分析手法の活用に向けた検討

- ・帰着ベースの分析手法等による効果の「見える化」
 - SCGE分析(※)の試験的实施

※ 空間的応用一般均衡(Spatial Computable General Equilibrium)分析。受益者側の視点で便益を評価する一手法。

事業へのフィードバック

ストック効果の高い事業への重点化に向けたマネジメントサイクルの確立

○「見える化」で得た知見(工夫・効果・レッスン)の活用

- ストック効果の計測に必要なデータ類の整理
- ストック効果の発現状況の多面的な指標による類推・把握
- 工夫・効果・レッスンの蓄積、インデックスを付したアーカイブやマニュアルの作成、横展開

○人材の育成

- 「効果が出る」から「効果を出す」へ職員の意識転換

具体的な取組(例)

- ・工夫の適用の検討やレッスンの活用を事業実施のプロセスに組み込む仕組みづくり
- ・まちづくりと連携したインフラ整備のための協議会や利用者・住民参画の検討組織の設置
- ・複数事業の一体的実施等の工夫の適用に向けたアドバイザー紹介制度の実施
- ・専門研修プログラムの設置
- ・工夫の優良事例の認定や表彰制度の実施